

荒穂神社 御神幸祭

み ゆ き ま つ り



9月23日(秋分の日)に、町の代表的な民俗芸能の一つで、長い伝統をもつ「御神幸祭」が行われます。肥前四式内社の一つに挙げられる荒穂神社の秋の祭礼である御神幸祭では、さまざまな民俗芸能が奉納されます。

荒穂神社の歴史

荒穂神社は、基山南麓の宮浦字宮脇に鎮座し、格式と由緒のある神社です。今から約1160年前に記された『日本三代実録』貞観2年(860年)の項には、荒穂天神の神としての位を上げるといった記事を見ることが出来ます。また、延長5年(927年)撰進の『延喜式神名帳』には、肥前のなかに4つの社名が記されており、その一つとして荒穂神社の名が出てきます。古い文献に名があることから、荒穂神社は古代より尊崇されてきた格式高い神社であることが分かります。

主祭神は荒穂天神で、かつては基山山頂にあったと伝えられています。現在も山頂にはタマタマ石と呼ばれる花崗岩の巨石があり、これを磐座(神様が宿る聖なる岩石)とする自然神であったと考えられます。

5世紀にわたり続く大祭

荒穂神社の重要な祭である大祭の一つが御神幸祭にあたります。いつから行われていたのか定かではないものの、少なくとも約500年前の文献である『神幸文書(写)』に、祭に関する記事を見ることが出来ます。昭和32年(1957年)に一度途絶したものの、昭和43年(1968年)に復活しました。

御神幸祭の流れ

大祭は、御神幸の6日前に、お酒の栓を開けることから始まります。その後、注連縄張り、神の座、柴垣の座などの祭事が行われ、御神幸祭の当日を迎えます。

御神幸祭当日の早朝、神殿では御神体が御神輿に移され、各芸能が奉納されます。その後、神社を出発し、御仮殿(多世代交流センター憩の家北側の社殿)に向かいます(お下り)。御仮殿に到着後、正午から神事が行われ、各種芸能が奉納されます。奉納が終了した夕刻に、御神輿は神社に帰還し(お上り)、再び芸能が奉納されます。

このように、神様が御神輿に乗って神社からお出でになることを「御神幸」といいます。そして、その際に目的地である御旅所が仮の社殿になることから「御仮殿」といいます。

御神幸祭は、神様に豊作を願う祈りと感謝の気持ちを表すもので、古来より受け継がれてきました。また、令和3年6月1日には、町指定重要無形民俗文化財に指定しました。この機会に御神幸祭を通じて、郷土の伝統を感じてみませんか。

ご米場
お待ちしております



令和5年度の 御神幸祭

日時.. 9月23日(祝) 正午

場所.. 御仮殿

(多世代交流センター憩の家前)

※当日は臨時バスを運行します。
駐車場などの詳細は6ページをご覧ください。

荒穂神社に奉納される民俗芸能



さいばらい 災払

仁蓮寺の少年10名、青年8名によって奉納されます。災払は、別名「棒遣い」ともいい、その役目は道案内と悪魔払いといわれています。全40数手にも及ぶ勇壮な棒術が披露されます。



かねふりゆう 鉦風流

西長野の総勢50名によって奉納されます。御神幸祭を、別名「どんきやんきやん」と呼ぶのは、この鉦の音に由来していると考えられます。

昔、園部の金丸に住んでいた八並長者が子どもを授かったお礼として、信仰していた荒穂神社に奉納したと伝えられています。



ししまい 獅子舞

向平原、辻、引地、一井木、水上、田中の総勢50名によって奉納されます。2人ずつが入った赤の雄と黒の雌の獅子が獅子釣の所作に導かれ、対の動きをします。獅子は、時には激しく、時には静かに、音とともに華麗な舞を演じます。この獅子舞は、大陸から伝来してきたものと考えられています。



ぎょうれつ 行列

御神幸祭のお下り、お上りの際には、災払を先頭に、鉦風流、獅子の鉦の道囃子による踊りに続き、「立傘」、「台傘」、「挟箱」、「羽熊」の大名行列が練り歩きます。これらは住吉、不動寺、オノ上の人々によって奉納されます。その後ろに、秋光、千塔の鉄砲などに続き、木山口の青年による奏楽のなか、神輿の下をくぐろうとする人々にもまれながら進んでいきます。

立傘は、先が細い傘で、大名が小休止する際に日陰を作るために使用するものです。台傘は、先が円盤状で、大名が立ち止まったり、徒歩で進んだりするときに頭上にかかげられるものです。挟箱は、衣服や道具を入れた箱に棒を付けて、足軽が担いだものです。5歩進んで4歩下がるというゆったりとした歩が行われます。羽熊は、槍の先端を毛で飾ったもので、毛の色によって「白羽熊」と「黒羽熊」の2種類があり、長い槍の投げ渡しは豪快さを感じることができます。

御神幸祭 会場周辺図

車で来場の場合は、臨時駐車場をご利用ください
P1 基山町役場 / P2 福祉交流館



無料臨時バスをご利用ください

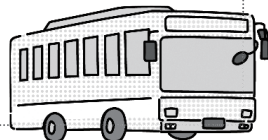
JR 基山駅や各臨時駐車場と、会場の御仮殿との間で、無料の臨時バスを運行します。

運行区間

- ① JR 基山駅
- ② 基山町役場 (玄関前)
- ③ 福祉交流館 (玄関前)



御仮殿
(憩の家)



行き

① JR 基山駅 → ② 基山町役場 → 御仮殿
 → ③ 福祉交流館 → 御仮殿

	① JR 基山駅	② 基山町役場	御仮殿	③ 福祉交流館	御仮殿
1 便	11:30	11:35	11:38	11:41	11:45
2 便	12:00	12:05	12:08	12:11	12:15
3 便	12:30	12:35	12:38	12:41	12:45
4 便	13:00	13:05	13:08	13:11	13:15
5 便	13:30	13:35	13:38	13:41	13:45
6 便	14:00	14:05	14:08	14:11	14:15

帰り

御仮殿 → ③ 福祉交流館
 → ① JR 基山駅 → ② 基山町役場

	御仮殿	③ 福祉交流館	① JR 基山駅	② 基山町役場
1 便	14:30	14:33	14:38	14:43
2 便	14:48	14:51	14:56	15:01
3 便	15:20	15:23	15:28	15:33
4 便	15:38	15:41	15:46	15:51

「御神幸祭サポーター」を募集します

問 申 教育学習課 ふるさと歴史のまち推進係
☎ 92-2200 ✉ furusato-2@town.kiyama.lg.jp

町では、荒穂神社の御神幸祭をお手伝いしていただく「御神幸祭サポーター」を募集します。荒穂神社や御神幸の道などに飾られる「しめ縄づくり」、御神幸祭当日の「御神輿担ぎ」、御神幸祭翌日の「後片付け」のサポートをしていただきます。

▽募集内容

内容	対象・人数	日時	場所
わらすぐり	5人程度	9月11日(月) 午前8時～	JA さが基山地区 共同乾燥施設 (宮浦共乾)
しめ縄づくり	10人程度	9月17日(日) 午前8時～	
御神輿担ぎ	男性10人程度	9月23日(祝) お下り：午前6時～9時 お上り：午後2時～6時	お下り：荒穂神社本殿前 お上り：御仮殿前
後片付け	10人程度	9月24日(日) 午前9時～午後3時	御仮殿

※この他の詳細は、必要に応じて応募者に直接連絡します。

「きやまの民俗芸能展」を開催します

問 教育学習課 ふるさと歴史のまち推進係 ☎ 92-2200

荒穂神社の御神幸祭と宝満神社の園部くんちでは、さまざまな芸能(災払、獅子舞、鉦風流、羽熊、挟箱など)が奉納されます。令和3年度には、町がこの2つの祭りを、町指定重要無形民俗文化財に指定しました。

しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で、令和2年度から3年連続で神事のみが執り行われ、祭りは中止されました。ようやく今年、4年ぶりにすべての芸能が奉納される予定となっています。

そこで、町では民俗芸能の保存と顕彰を図るため「きやまの民俗芸能展」を開催します。実際に使われる祭具や写真で、2つの祭りの歴史や伝統に触れてみませんか。

▽展示期間

9月5日(火)～10月15日(日)

▽会場

町立図書館
郷土資料コーナー



宝満神社の園部くんち

